

第3期 第5回 向日市子ども・子育て会議

○日 時 令和元年12月20日(金) 午後1時30分～午後3時

○場 所 向日市女性活躍センター「あすもあ」

○出席者 (出席委員12名)

安藤和彦委員(会長)、今福友恵委員(代理:小寺恵里様)、井上裕之委員(代理:田川由美子様)、海東紗代子委員、風谷千賀子委員、加原ゆり委員、高山紀公子委員、田中久美子委員、田部千夏委員、福井千津委員(代理:児玉周司様)、松下有紀委員、宮地健一委員、
(50音順)

(事務局11人)

【市民サービス部】

水上市民サービス部長、川本市民サービス部副部長、長谷川和代障がい者支援課長、柴田健康推進課長、長谷川琢子育て支援課長、荒賀子育て支援係長、中川子育て支援課主査

【教育部】

小賀野教育部長、鹿島生涯学習課長、松石学校教育課長、野田学校教育課担当課長

【株式会社 名豊】

神田 稔

○欠席者 (委員8人)

川村宗己委員、築山剛委員、辻千佳委員、津田陽委員、花安肇委員、藤井一郎委員、余根田聡委員、和田泰徳委員
(50音順)

○傍聴者 1名

○議 題 第2期 向日市子ども・子育て支援事業計画(素案)について

(議 事 内 容)

議題 第2期 向日市子ども・子育て支援事業計画（素案）について	
事務局	資料を用いて、第2期向日市子ども・子育て支援事業計画の素案 第4章について説明 (第4章についての主な質疑・意見)
委員	<p>親自身がエンパワーさせること。自立的な力をつける。母親として地域の人に学ぶことができない。核家族になっているので学ぶことができない。地域の子育て力を育て、反映するには。その施策を打つべき。</p> <p>保育所や幼稚園と協力して、集団における幼児の発達を支援する。療育と教育が分離されているがゆえに、子どもたち、親が不安がっている、保育園や幼稚園と協力し、集団における幼児の発達をもとに行っていけないといけない。</p> <p>情報がHPにあり何を選べばいいかわからない。知識が過剰のゆえに不安に陥っているといっている。</p> <p>安全な放課後等の居場所づくりであれば放課後デイのこと。質的向上について書かないといけない。</p> <p>今までのように手とり、足取りやっていたら依存する女性を作る。自立しないとけない。親育力を向上させる。</p> <p>災害に備えるための情報を発信する。乳児をもつお母さん、家庭を見守るための防災計画を立てるなど何か書いてほしい。</p> <p>防災対策の中で子どもが置き去りにされていないか。そこは反映してほしい。</p> <p>子育て支援センターの3つの役割の一つ。学び。親が学ぶ視点がない。福祉の視点しかなく、教育の視点が大事。</p>
委員	専門職の方があまり難しいことを言うと、子育てしている親が不安を感じる。離乳食教室でもすべてが手作りではなくてもいいという話をしていた。一安心と感じた。充実されたらいいと思う。
委員	親育力の向上で、父親の教育をもっと充実してもらいたい。母親だけが育児をしがちになるが、ワンオペの育児で、悩みを抱えている親が多い。発達相談などいろんな教室もあるが、土・日曜日にやってもらって、父母と一緒に参加できるような、家族で向き合える場を考えていければと思う。

委員	親力、男性を支える施策がない。地域力を支えるのにおじいちゃん、おばあちゃんの力もあるし、そういう施策が反映できないか。
委員	発達障害とまでは言わないが、やりにくい、育てにくいという人もいる。特徴ある子どもで、障害があるかもしれないが、その子どもを家庭でどうやって育てていくか。フォローしていく療育機関が必要だと思う。
事務局	第5章について説明 (第5章についての主な質疑・意見)
会長	5章について意見はありますか。みなさんが了承であれば、4章に戻ります。
委員	親育ちは昔から言われている。「育ち」は親に主体性があるって、それを周りがサポートするのが「親育て」である。
委員	幼稚園に入ると子ども同士の中で、親はどの立ち位置がいいのか。幼稚園の先生は、発達上の説明をしたうえで、こうしたらいいと教えてくれる。親の力を教えていただく。幼稚園の先生は指導者であり適任だと思った。
委員	集団の中で、どう対応するのか大切である。3歳で自分をしっかり出し、4歳で友達を見つけ、集団の中で自分を見つける。この感覚を小学校、中学校と重ねていって、人間は成人する。個々の視点が問われている。
委員	施策の就学前のところは、質の向上と教育の人材育成、情報交流の3本立てになっているのは良いと思う。情報交流のところは小学校を入れてほしい。
委員	毎日のように防犯の不審者情報が発信されている。高齢者の方の存在、役割は大きいと思う。見守りの方にも頭が下がる。高齢者の方に関わってもらうのが地域連携で良いと思う。
委員	図書館が一つしかないのだから、遠い場所の人もいるのでバスの運行など市民がどこに住んでいても簡単にアクセスできるようにしてほしい。

委員	<p>母子家庭でコミュニティがないところで飛び込んできたが、近所の方が受け入れてくれた。その時はいっぱいいっばいで、市でいろいろやってくれることを知らなかった。様々な情報がもう少し目につくようにしてもらえたらと思う。</p>
委員	<p>発達障害のこどもが学童を利用している。週の半分を放課後デイ、半分を学童を利用されている。学童の中で療育の知識がある指導員はいるのか。発達障害を持っている子どもが、たくさん子どもが走っているなかで過ごすのは心配である。放課後デイと学童は連携取れているのか。</p>
委員	<p>知的障害の就労の支援がなくなった。ライフスタイルの最後まで念頭においてほしい。</p>
委員	<p>障害があるとわかった子どもが、障害があっても自立して生きていけるとわかれば、今度、親になりたい子どもが希望を持てる。</p>
事務局	<p>施策については、国の方針を参考にしながら作成していく。たくさんご意見をいただいたので、精査し、修正していきます。</p> <p>今後の計画策定スケジュールを説明。会議の日程については会長と調整し、委員へお知らせする。</p> <p>以 上</p>